

# 何が待っているか分からない時代に 校長職に就かれた方々へ

吉田和夫（一般社団法人教育デザイン研究所代表理事）

## ■ 新たな時代を担われる校長先生へのエール

校長へのご就任、誠におめでとうございます。また、たいへんお疲れさまです。というのには、私が校長をしていた一〇年前に比べても、社会の変化や時代の推移は驚くほどに速く、何が起るかわからない社会の現状に日々対応なさる校長先生方のご苦労やご心労はさぞやたいへんだろうと拝察する次第です。何かお力になれればと存じます。

とは言うものの、「校長」は学校の経営を担うきわめて重要な職であり、それに対する皆さま方の意欲や心意気もまた並々ならぬものであると十分承知いたしております。

昔、指導主事として勤務していた頃、教育改革を高らかに謳う自治体の教育長に「校長になることが目的ではなく、そこで何ができるかが問題なのだ」とよく言われました。これは全くそのとおりでした。しかし、実際に自分が校長になってみると、さまざまなしがらみや前例踏襲などを求める多くの圧力にがんじがらめになってしまうこともありました。いや、私はそんなことはないと思う方、ぜひ初心貫徹でお願いいたします。

## ■ 新たに校長になられた方への七つのメッセージ

校長職に就き、いくらか先を歩んだ人間として次のことを申しあげたいと存じます。

まあ、そんな年寄りのたわごとなど、聞く耳を持たないという方はどうぞ遠慮なく読み飛ばしていただいでけっこうです。でも、少しでも皆さまの心に残れば幸いです。

①新しい時代には新たな方針や方策、そして計画が必要です。それを忘れないでください。どんなに歴代の校長が偉くても、他の学校の校長が立派でも、その方々

は今のあなたの、この学校の現状に対応できるわけではありません。それができるのは、現校長のあなただけです。自覚と自信と責任感を持って生き生きとお進みください。

②校長だけが前面に出るのではなく、教職員や児童・生徒、そして協働・協創の精神とともに歩んでくださる地域や保護者の方々を常に前面に出してください。自分だけで学校経営ができるとは努力<sup>ゆめゆめ</sup>思わず、人を頼ってください。

③自分が何のために今ここにいるのか、自分がここにできることは何か、それをいつも考えてください。そこにはかけがえないあなた自身があります。また、何よりも、かけがえない日々を過ごす児童・生徒がいるのです。そのため、今全力でできることを考え、任期の間、常に学校をよくするために力を尽くしましょう。

④PDCAサイクル、この経営（マネジメント）サイクルが定着しています。しかし、最も大事なはそのPDCAをどのような理念やベクトルで動かすかというあなたのビジョン（目的や意図）やゴールイメージです。そのベクトルをぜひ他の方々とも共有し、高めるようにしてください。そして、PDCAサイクルの後、

それらを成果と課題として常に周りに発信・発表・公開してください。DX（デジタルトランスフォーメーション）の時代です。HPやSNSもぜひ効果的に活用してください。

⑤社会の変化と学校、学校教育、そして「学び」の変化がいちじるしい時代です。これまで学校で通用していた世界観や論理、考え方がそのまま今後も通用するとは限りません。むしろ新しい時代には新しい方向や心構えが必要です。また、何事においても「創意・工夫・改善・改良」が大切な時代です。常に「学び続ける」人だけが新たな時代を生み出せます。そう、私はあなたに「学び続ける」校長になっていただきたいのです。この常に「学び続ける」姿勢は、教職員だけでなく、児童・生徒・保護者・地域にも必ず伝わっていくだろうと思います。常に新しいことを学び続けましょう。

⑥ちよつと言いくいのですが、地位や立場に価値があるとは限らないのです。むしろその地位や立場が人の目を狂わせたり、正しい判断を損なう原因となったりします。世の中にはさまざまな方がいます。そして、児童・生徒も多様極まりないのです。地位や立場という結果だけにとらわれず、それぞれの立場や役割にい

る他の人に等しく敬意を持ち、自らの人権感覚を磨く努力をしたいものです。また、児童・生徒を現在の姿や成果、成績だけで判断したり、評価したりしないようにしてほしいのです。人は変わるもの、君子豹変、三日会わざれば刮目して見よ、このような変化が誰にでもあり得ます。同窓会などに参加すると、かつての教え子の姿が現在の姿の中に「入子型」で入っていると感じます。同時に、あの子のあの子がこのようになるのかと、まさに刮目して見ることも多いのです。多くの経験を積まれて校長になられた皆さまなら、教師としての矜持がおありでしょう。そのような「人を尊び、より豊かになることを期待する教師の精神」が校長の矜持であり最良の資質なのだと考えます。教職員も児童・生徒もきつとそれを感じ取ることでしょう。

⑦地域の中に学校があるという考え方が主流になりつつあります。これは当然のことです。何か大きな自然災害や突発的な出来事が起きたとき、学校は地域の生活の拠点となります。地域のために学校や教職員、児童・生徒が何ができるのかを考えたいものです。そう、教育の場としての学校はまさに地域の生活の拠点なのです。今、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの推進が求められつつあ

ります。校長として、地域とともに歩む学校づくりにぜひご尽力ください。学校は地域の公共施設そのものです。地域の方々とともに学びに向かう姿勢を児童・生徒にぜひ身に付けさせてほしいと思います。学校の施設・設備はすべて公共のものであり、市民の税金で賄われているのです。常に地域の方々がよりよく使える施設をめざしたいものです。学校の門戸を可能な限り地域に開き、地域とともに歩んでください。

まだまだ多くのことをお伝えしたいのですが、紙幅が尽きました。皆さまの今後のご活躍を心から期待いたします。校長あつての学校です。ぜひ、教職員も児童・生徒も、日々を明るく元気に過ごせる、そんな学校を地域の方々と創ってください。

#### プロフィール

千葉県・東京都の公立中学校教諭、指導主事、副校長、校長、玉川大学客員教授を経て、現在、町田市社会教育委員議長、東京都地域学校協働活動推進員など。主な著書に『なぜ、あの先生は誰からも許されるのか?』（東洋館出版社）『コミュニティ・シオンがうまくとれる校長、とれない校長』（学事出版）他多数。